

競馬がますます
楽しくなる

続 ファンにやさしい

馬学講座

第30回

2歳馬に起こりやすい 喉の疾患とスクミについて

講師

草野寛一さん
JRA 馬事部 獣医課



案内人：辻谷秋人
text by Akihiro Tsujiya

骨以外にもある
成長段階の問題

前号では、2歳馬が罹りやすい病気として、ソエを取り上げた。これは、まだ成長途上にある若馬が強い運動を行うことで体にかかる負担が原因となる、つまり体の成長過程を要因とする疾病だ。

今回も引き続き2歳馬の健康について、JRA馬事部の草野寛一さんにお話を伺っていくが、草野さんによると、体の成長が競走に与える影響は骨に限ったことではないのだという。

「実は2歳馬には喉にも問題があります。咽頭リンパの過形成といって、生後まもなく喉の奥にできるブツブツが徐々に大きくなって、2歳あたりで最大になります。これ自体は病気でもなんでもなく、加齢とともになくなっていくのですが、程度が重いものや細菌感染した場合(咽頭炎といいます)は、うまく空気を取り込めないことがあるんです」

空気、つまり酸素を取り込めないという酸素エネルギーが十分に作れず、結果がス欠を起こすことになってしまふ。また、ノド鳴りの原因にもなるのだという。

環境の変化が
体調に影響する

と、実は私たちが考える以上に体の成長段階は関係しているようなのだが、2歳馬特有の事情はこれにとどまらない。もうひとつの要因、それは「環境の変化」だ。

「2歳馬によく見られるものとして、コズミ、スクミがあります。体がかたくなって、動きがスムーズでない状態を指します。よく『恐怖で体がすぐんで動けなくなった』といったようなことを言いますが、それと同じです」

実はこのコズミ、スクミは科学的・医学的にはなかなか複雑なものなのだという。俗にいうコズミ、スクミは病名ではなく、特定の症状を指す「競馬業界用語」

で、専門的にはいろいろな病気・疾病が含まれているのだそう。ただ、ここではいわゆる業界用語としての「スクミ」についてお話いただくことにする。

「スクミの原因はいくつか考えられるんですが、そのひとつが飼料、飼料だということが分かってきました」

トレンセンに入厩した2歳馬にとって、それ以前と大きく変わるもののひとつが、飼料だ。強いトレンニングを行うために、トレンセンでは栄養価の高い濃厚飼料(えん麦などの穀物を主とするもの)が与えられる。栄養価の高いものを食べて、激しい運動をすることが、スクミの原因になるのだという。

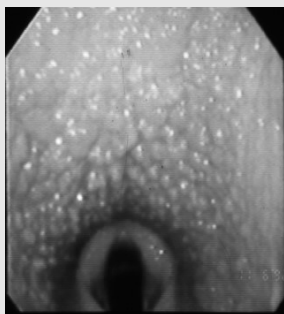
「トレンセンは月曜が全休日ですから、この日は飼料だけ食べて運動はしないことになりまふ。そして翌日の火曜に運動しようとするスクミ。そういう2歳馬が以前はとてよく見られました。しかし原因が飼料にあることが分かっていたので、日曜日、月曜日には飼料を減らしたり穀物を抜いたり、あるいは穀類の代わ

りに油を与えるといったことをするようになりまふ。これで実際に、馬はスクミにくくなりました」

もつともスクミの原因は飼料だけではなく、遺伝的な要因もあることが分かっている。飼料を変えればスクミがなくなるといわけではないとのことだ。

いずれにしても、体の成長という環境の変化といい、2歳馬の置かれている状況は簡単なものではないようだ。私たちファンはすぐに翌年のクラシックがちらついて2歳馬たちにも結果を求めてしまいがちだが、そこは焦らず、長い目で見る必要があるのではないだろうか。

JRA原因



喉の奥にできるブツブツが、競走能力に影響を及ぼす場合がある